

# 人⑦⑦ 道祖先の写真で古典を開く

うえぬま  
上沼 ミツきん  
鳥原新地・七十九歳

道祖神とは、村境などにもうけられる夫婦一体からなる神像である。道路守護の神様とされる。

野原の方へ撮影旅行に行った時に「素晴らしい表情の道祖神に巡りあい、魅せられて」撮り始めた。「いやらしい感じでなく、自然に

手を握りあったり、肩を抱きあったりしている姿がとてもほほえましいと思います」と上沼さん。昨年と今年にも道祖神を撮り、

そのうちの二十一点を新潟三越裏の美術サロン「紗衣」で個展という形で展示した。残念ながら、十月十七日から三十一日までなのでこの号が届いてからでは間に合わない。せめて、展示作品の一部でも紹介しておこうと、三点を掲載させていただいた。(なお、

「紗衣」で展示した作品は、新潟県社会福祉協議会に寄贈され、県内各地の老人ホームなどの福祉施設で飾られることになるそうだ)

さて、上沼さんはこの号が出るころには七十九歳になる。「もう先は長くないのだから、いい作品を残したい」というが、これから撮りたいものがあると聞くと、「花や虫たちはこれからも撮り続けたいし、道祖神も。風景もいろいろ撮りたいと思っています」と、写真に対する意欲はまだまだ衰えそうもない。

上沼さんについてはすでにこの広報でも昭和五十八年十二月号でカエルやチョウなどの自然の中の小さな生物を得意とする、カメラおばあさん」として紹介している。この「人」欄の第一回(当時はマイ・ウエイというタイトルだった)に登場していたのだ。その記事を一部引用しよう。「昭和五十一年に県展に初入選。五十四年から五十八年五年連続して入選を続け、そのうち奨励賞を四回受賞する。(中略)得意とするのはかえるやちようなど自然の中の小さな生物である。特にかえるを撮らせたら右にでる者はいないといわれる。」読者の皆さんもどこかで上沼さんの撮ったカエルの写真を見たことがあるはずだ。



上2点と右下の写真が上沼さんの撮った道祖神。ほほえましい表情に注目。いずれも長野県内で撮影。最近では道祖神を飾り物とするため盗む人もいそう、「柵や屋根が取り付けられるなどして、うまく撮るのがむずかしいんです」と上沼さん。左下の写真は今年の春、立仏のチューリップ畑でチューリップを撮影した時の上沼さん。

上沼さんが道祖神を撮り始めたのは一昨年からだった。知人と長

## ほんの一冊

オカルト・ジャパン  
小山折哲雄・鎌田東二 著  
平凡社

女子中高校生の間で星占いやおまじ

ないならばはやっているそうですし、宗教も戦後何番目かのブームだそうで、オカルト的なものが好まれている時代ようです。「オカルト・ジャパン」と銘うたれた本書は、日本の歴史・文化の底に流れているオカルト(神秘主義)的なものを二人の宗教学者が対談という形で語ったもの。日本神話や中世の宗教について語っているかと思うと、それが現代の差別やいじめの問題に結びついていることに気づかされたりして、とても刺激的な一冊。ていねいな脚注や参考文献もあり、入門書としては手ごろでしょう。(すでに版元では品切れだそうですが、ありがたいことに町立図書館にあります)

~~~~~ (人の動き) ~~~~~

|                |          |
|----------------|----------|
| 9月末日現在 (前月比)   | 前年 (同月比) |
| 人口 23,503 (+4) | [+301]   |
| 男 11,525 (+8)  | [+167]   |
| 女 11,978 (-4)  | [+134]   |
| 世帯 6,296 (+7)  | [+124]   |
| 9月1日~末日        |          |
| 出生 26          | 転入 42    |
| 婚姻 2           | 転出 53    |
| 死亡 12          |          |

新潟県 黒埼町

◆おわび 10月号に一部乱丁がありました。5ページから12ページが脱落し、かわりに1ページから4ページ、13ページから16ページが重複していた、というものです。もし、お気付きになりましたら、役場企画開発課の広報担当(☎377-3101内線336)へご連絡ください。お取り替えいたします。また、今後はこのようなことがないよう十分注意いたしますが、万が一、落丁・乱丁などがございましたら、役場企画開発課の広報担当へご連絡ください。すぐに伺いお取り替えいたします。

